

不正咬合学実習（山口 徹太郎）

The laboratory course for science of malocclusion（Tetsutaro Yamaguchi）

キーワード

- ① 歯科矯正学
- ② 不正咬合
- ③ 成長発育
- ④ 診断学
- ⑤ 治療学

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②,④,⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,⑤,⑥

授業概要

基本的な矯正用器械や器具の使用と矯正技工手技を実習する。基本的な矯正装置の作製、装着および治療中の管理と調節を実習する。マルチブラケット装置の装着、調整、ならびに管理を実習する。保定装置の作製と調節および使用上の注意と指導を実習する。初診時資料採得、症例分析、診断、治療計画の立案を実習する。

授業科目の学修目標

診察・検査・診断および治療計画について修得する。実習を通じて必要な知識・態度・技能を体系的かつ包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 矯正歯科治療の基本的事項の理解と実践(タイポドント実習を含む)20コマ 山口 徹太郎、高橋 正皓、畠中 玲奈
- ② 他の分野との連携の理解と実践 8コマ 山口 徹太郎、高橋 正皓、畠中 玲奈
- ③ 矯正歯科治療における初診時資料採得、症例分析、診断、治療計画の立案 32コマ 山口 徹太郎、高橋 正皓、畠中 玲奈

教科書および参考書

歯科矯正学 第6版 医歯薬出版。チェアサイド・ラボサイドの新矯正装置ビジュアルガイド 医歯薬出版。

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

大学院教育と同時に、日本矯正歯科学会 認定医育成に準拠したカリキュラムで研修する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 矯正歯科治療の基本的事項を理解し、実践できる。
- ② 他の分野との連携の理解し、実践できる。
- ③ 矯正歯科治療における初診時資料採得、症例分析、診断、治療計画立案ができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	0%	25%	0%	50%	25%	0%

評価の要点

- ・成果発表は、診断、治療計画の立案、タイポドント実習から判定する。5回×5% = 25%
- ・口頭試問は、成果発表、製作物提出時になされる。10回×5% = 50%
- ・実技は、ワイヤーベンディングを評価する。5回×5% = 25%

理想的な達成レベルの目安

不正咬合学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。